

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 2191000047 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人 りあらいず和 | | |
| 事業所名 | 認知症対応型共同生活介護 郡上乃風グループホーム 木もれ陽の家 | | |
| 所在地 | 岐阜県郡上市八幡町初納430-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年12月10日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年3月8日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191000047-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 んふ福祉サービス利用者センター びーすけっと |
| 所在地 | 岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル |
| 訪問調査日 | 令和4年1月20日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度はコロナ禍により、様々な行事を始め、利用者の面会や外出にも制限がありましたが、その中でも、日々の生活で少しでも楽しみや、生きがいを見つけていただけるように、出来る範囲での活動をしてきました。
また、平成30年から行っていた外国人の研修雇用に関しては、コロナ禍により中止としましたが、今後も機会があれば、利用者との異文化交流としても再開したいです。利用者、家族、職員が1つの家族として暮らせる場所づくりは開所一番力を入れている点になります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

現在もコロナ禍にあるため、地域との交流や外出が制限されている。毎日、利用者と朝の体操を行い、午後にも体を動かす活動を取り入れるなど、利用者の身体機能低下を防げるよう支援している。法人は、指定障がい福祉サービス事業や配食事業等もっており、就労支援として障がい者の雇用の場とするなど、法人の持つ多機能性を活かした運営を展開している。利用者の食事は法人の配食サービスを利用し、通院送迎等は助け合い事業を活用している。保育事業で職員の子育て支援体制を整えながら、働きやすい環境整備に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価票

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念である「自分の家族や自分自身が受けたくなる介護」を具体的実践に置き換えて、職員研修やフロア会議等で話し合い共有している。利用者が、住み慣れた地域の中で、残存機能の維持、継続ができるよう支援し、利用者自身が役割を実感できるケアを目指している。 | コロナ禍で地域との交流や外出制限がある中、利用者の残存機能の維持支援のため、室内での活動を工夫している。緊急事態宣言時には、理念を実践につなげることを大変さと必要なことである事を、改めて職員間で認識し理念の実践に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の舞遊会の方々を招いて、利用者と一緒に歌を歌ったり、踊ったり充実した時間を共有することができた。 | 新型コロナ感染予防の為、地域との交流は中止していたが、唯一、緩和状態の時に地域の舞遊会の来訪を受け入れ、地域とのつながりが継続できた。広報誌は途切れることなく配布され、その情報を利用者と共有している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 夏休み等に学生(小中高)のボランティア等の受け入れを積極的にしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍により実施出来ていないが、運営推進会議には地域代表、行政、家族、利用者が参加し、行事報告や、今後の予定等意見交換を行っている。 | 市の指導により、コロナ禍での運営推進会議は中止となっている。書面会議録の提出指示もなく、今後の開催は市担当者と相談し進めていく予定である。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議の場で、地域高齢者の現状、介護保険の動向等意見交換を行っていた。行政とは、空き状況や困難事例の相談で連絡を密に行っている。 | 開設時から入居していた利用者が、100歳の誕生日をホームで迎えることができ、市長の訪問を受け、表彰状、銀杯が贈られている。運営に必要な情報や相談等は、日常的に市担当者と連絡を取るなど協力関係の構築に努めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束等防止委員会を定期的開催している。拘束をしないケアを周知徹底し、利用者の安心安全な支援に努め、拘束をしないことで起きるリスクについても話し合いながら、統一した支援を目指している。 | 職員会議の中で身体拘束防止や虐待防止について、話し合っている。今後は、委員会議事録として整備していくことを検討している。身体拘束防止に取り組みながら、ヒヤリハット事例を職員間で共有し、未然に防げるよう努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止委員会を設置し、毎月の職員の会議にて、虐待への知識向上を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員会議の中で、日常生活自立支援事業や、成年後見制度について取り上げる機会を設け、職員全体で学ぶ環境を作る。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 見学時や利用説明時には施設長・管理者・ケアマネが立ち合い、十分な説明を行うよう努めている。また、疑問や不安点は随時解決できるように引継ぎ対応等の整備をしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者と家族の要望を聞き、支援内容を明確にするために、面会時等に相談時間を設けて、個別支援の充実に努めた。家族との協力関係を築きながら、検討課題の実現を目指している。 | 感染予防対策を講じた上で、短時間ではあるが相談室での家族面会を実施している。毎月の便りには、担当者が利用者の様子を添えて送っている。利用者の様子がわかる写真を載せたいが、デジタル機器操作ができる職員に限られているため、なかなか取り組めていない。 | 前回、家族との関係充実に向けた取り組みを課題として挙げていたが、コロナ禍で先送りとなっている。利用者の様子がわかる写真や運営情報等を載せたホーム便りの充実に期待したい。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者も現場に入り、職員の日々の気づきや要望を聞いている。出来ることから迅速に改善を行い、組織的課題については、機会を設けて会議の場等で検討している。職員の資格取得を奨励し、職場環境・条件整備でモチベーションを高めながら、運営に反映させている。 | 年2回、管理者が職員個別面談を実施し、意見を聞きながら人事考課に活かし、運営に反映させている。職員の業務負担を考慮し、食事は外注と法人運営の配達弁当食としている。働き方も個々の要望に添って働きやすい環境を整えている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 処遇改善加算の取得で、賃金アップによるモチベーション向上を行っている。また、年2回全職員に個別面談を実施し、意見等の聞き取りも行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | OJT等社内研修の実施や資格取得サポート(有給休暇やシフト調整)を行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ネットワーク会議研修への参加や市役所高齢福祉課主催のカフェへの参加等によるサービス内容等の同業者交流に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 見学時や利用説明時には施設長・管理者・ケアマネが立ち合い、十分な説明を行うよう努めている。また、疑問や不安点は随時解決できるように引継ぎ対応等の整備をしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 見学時や利用説明時には施設長・管理者・ケアマネが立ち合い、十分な説明を行うよう努めている。また、疑問や不安点は随時解決できるように引継ぎ対応等の整備をしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 家族や病院、利用していた支援所等への問い合わせを事前に行っており、出来るだけスムーズなサービス導入が出来るように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 地元の話や方言(郡上弁)で会話をすることで、親近感のある対応を行っている。また、理念である家族のような関係を築けるように努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族とは面会時や外出時に、利用者の近況報告をしたり、木もれ陽便り等の意見を聞いたりし、出来るだけ話しやすい雰囲気を作るよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族や友人の訪問もあり、面会時には気兼ねなく過ごせるように配慮している。また、本人や家族の希望もあれば外出支援のお手伝いもしている。 | 新型コロナ感染拡大状況に応じて、家族との面会を中止したり、場所や時間を限定して実施し、関係の継続につなげている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士で交流できるように、朝の体操や昼のレク、おやつ時間を設け、居室だけで過ごさずフロアでの交流を促せる声かけに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | アフターフォロー等、退所後の施設や病院には細かく情報が交換できる体制を整えている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者の思いや意向の把握は、日々の暮らしの中で聞いたり、利用者同士の会話や普段の言動等からも把握するように努めている。新たな気づきは介護記録に記載し、職員間で共有している。困難な場合は、家族の協力を得ながら、利用者本位の支援に努めている。 | 日々の暮らしの中で、利用者の思いや意向を把握し、その内容を業務日誌に記載している。申し送りや情報を共有し、介護記録で情報を積み上げ、介護計画に反映させている。コロナ禍で家族の訪問が減ったこともあり、利用者とのコミュニケーションの時間を持つよう心がけ、思いや意向の把握に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 一人ひとりに合わせた支援や余暇等、個人のニーズに出来るだけ合わせた支援ができる様に、月一回の会議にて職員間で意見交換をし、個々に合わせたサービスが提供出来るように努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 担当職員を決めることにより、担当利用者の特化した細かな目で過ごし方等の観察を行い、会議にてその他の職員に周知出来るようにしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員と家族が共に、利用者の状態と介護計画の内容を理解しながら、チームとして一丸となって計画作成に関わる体制作りを努めている。家族の施設訪問時等に意見や要望を聞けるようにしている。 | 担当職員は、介護計画に基づいたケアが実践されているかをチェックし、それをケアマネジャーに報告している。モニタリングを重ね、現状に即した介護計画作成に努めている。前回の課題でもあった、「家族が介護計画作成に参加できる取り組み」を進めていたがコロナ禍で見送っている。 | 新型コロナ収束後には、前回の課題に向けた取り組みの継続に期待したい。コロナ禍であっても、丁寧なモニタリングと、その結果等を家族に伝えるなど、出来る範囲で家族と利用者情報の共有に努められたい。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 担当職員を決めることにより、担当利用者の特化した細かなサービス支援を行うように努めている。また、担当職員より他の職員や、家族に状態を共有し、介護計画の見直しや実践に活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 担当職員が都度あるニーズに応えるべく、会議等で相談や情報共有をし、サービス向上に向けて取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 利用者個々の都合に合わせた外出への理解や協力をし、家族と共に地域での生活も支えている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 契約時に、利用者・家族にかかりつけ医について、事業所の方針を説明している。受診は家族の同行を基本とし、家族と連携を図りながら、医療情報を共有している。遠方の家族や、緊急時等には、法人が運営している「助け合い事業」を利用し、適切な医療を受けられるように支援している。 | 利用者は家族の同行で、これまでのかかりつけ医を受診している。家族が同行することが困難な時には法人運営の助け合い事業を利用し、柔軟に対応している。看護師職員は非常勤であるが、緊急時には法人内の看護師も含めて連携体制にあり、適切な受診支援に努めている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 職員に准看護師が在職中の為、常に相談報告等の意見交換が出来ている。また、個々の情報を得るために、利用者の服薬管理を准看護師が行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入退院時には、医療機関に伺い、医療関係者との関係作りや利用者の最新情報収集、相談、意見交換が出来る体制作りを努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に、本人、家族に重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明し、同意を得ている。重度化した場合は、早い段階から家族と関係者が話し合い、医療関係者の意見を参考にしながら、方針を決定している。家族の意向を確認しつつ、より良い支援が行えるように取り組んでいる。 | 看取り支援は基本的には行っていないため、契約時にその旨を説明し、理解を得ている。利用者の状態変化に応じて、重度化や終末期を見据えた話し合いが必要な時には、家族の協力を得ながら段階を踏んで支援の手続き等を進めている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時対応マニュアルを作成し、職員会議等で全職員に周知している。また、職員一人ひとりが理解できるように防火管理者より指導も行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難誘導の確認や、災害時の備蓄品、防災器具の整備・確認を定期的に行っている。また、水害や地震対策についても、ハザードマップを参考に避難先や避難方法の確認も行っている。 | 年2回の法定災害訓練を行い、消防署に報告をしている。災害時における連絡網で、職員が自宅から事業所に到着する時間を計ったり、備蓄品の備えもしている。通常の勤務体制で、職員が災害時マニュアル通りに行動できるよう、独自訓練を検討している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 職員は常に法人理念の実践を意識するように心がけながら、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。馴染みのある方言での会話は、家庭的で心地良い対応に繋げている。 | 利用者が慣れ親しんだこの地域の方言で会話しているが、馴れ合いから利用者の尊厳を損ねることのないよう職員間で気を付けている。常に利用者の意思を確認しながら、体操やレクリエーション活動の参加を促している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者本位の介護サービスを行うよう、個々の希望に沿った暮らし方を提供、実践している。また、入浴時や体操、レク参加時等、都度確認も大切に行っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 都度の確認を大切にすることで、利用者個々のペースに合わせられる様に努めている。また、利用者一人ひとりのコンディションに合わせた支援が出来るように努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | クローゼットが広めに作られていて、服等を多めに持ち込むことができる様になっている。また、入浴時等の着替えの際は、自分で服を準備、選択し着用できるようにしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 法人の配食サービスを利用しながら、栄養管理と共に、一人ひとりの嚥下機能にも配慮した食事形態で提供している。また、イベント時には、特別メニューの提供等で、楽しみながら栄養補給が出来るように取り組んでいる。 | 職員の負担を考慮して、朝食は外注食品を温め、昼・夕食は法人の配食弁当を活用している。主食は用意しご飯かお粥が選択できる。日曜には利用者と一緒に季節の行事食や希望メニューを作ることもある。10時と3時のおやつタイムで、食事以外の水分補給を行っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 3度の食事の他に、10時と15時に水分補給や、おやつ時間を設け、一日を通してバランス良く食事や水分が摂取出来るように支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後に、口腔ケアとして歯磨き、義歯洗いの手伝い等の支援を個々の状況によりサポートしている。 | | |

岐阜県 郡上乃風グループホーム木もれ陽の家

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | トイレでの排泄が習慣になるよう、昼夜の声かけと、トイレ誘導で支援し、排泄用品の軽減にも繋げている。利用者の状態に合わせた排泄パットの変更も行い、本人の尊重を守り、違和感がないように配慮している。夜間はポータブルトイレを使用する方もみえる。 | 排泄チェック表で個々の排泄リズムを把握し、声掛けと誘導でトイレでの排泄を習慣化できるよう支援している。特に排便状況は申し送りで利用者個々の情報を共有している。災害時用に簡易トイレの整備と排泄用品の備蓄もしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事には、法人内の栄養管理がされている弁当を使用し、便秘予防に努めている。また、排便コントロールも個人ごとに管理し把握に努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴は週2回を基本とし、利用者の希望を確認している。職員は、利用者の状態に合わせて、清拭、足浴、シャワー浴等でコミュニケーションを図りながら支援している。普通浴が困難な方にも、リフト浴にて、安心安全な入浴支援を行っている。 | 2ユニットの一方がリフト対応での浴槽になっている。ユニット間で調整し個浴で気持ち良く入浴ができるよう支援し、男性職員の介助で、利用者の安心安全な入浴支援につなげている。脱衣室の室温にも配慮している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者のペースで一日を過ごしていただけるよう、レクの参加や入浴のタイミング、間食のタイミング等に配慮している。また、睡眠に関しても生活リズムが崩れないように声かけ等を大切にしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方された薬については、十分に理解した上で取扱いに注意し服薬している。准看護師が管理し、医療機関との連携を含めた情報共有を都度行うように心がけている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日常生活において各自のレベルに合わせて、出来る事をやっていただく一人ひとりの役割もある。また、嗜好品として好物は差し入れしていただくこともあります。気分転換にウッドデッキで外を眺めたりする方もみえる。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天候や利用者の健康状態に合わせて、ウッドデッキでの外気浴等、希望に応じて支援している。家族と外食に出かけたり、家の行事に参加される利用者もある。 | 新型コロナ感染予防対策として、外出を制限している。庭でおやつを食べたり、デッキでの外気浴で気分転換を図っている。朝の体操や午後の体操等、体を動かす活動を取り入れ、身体機能維持に努めている。感染拡大状況が一時緩和した年末年始には、利用者の半数が自宅に帰省することができている。 | |

岐阜県 郡上乃風グループホーム木もれ陽の家

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者個々のレベルに合わせた対応でお金の管理、利用をしています。買い物に行くのが難しい方には、欲しいもの等を伺い、職員が代わりに買い物へ行き対応している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族や知人に送れるような手紙をレクにて作成したり、希望がある方は、定期的に家族や知人とやり取りに対応している。電話は、かける時間を調整し、家族や知人に失礼のない程度で、自由に繋がられるように徹底している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 食堂兼リビングを広く活用し、車いす等も安全に行き来できる環境を心がけている。掘りごたつのある畳コーナーでは、利用者同士が会話やトランプを楽しむ等、家庭的な雰囲気大切にしている。 | 玄関は共通で、左右に各ユニットがあり、廊下で行き来ができる。年末の大掃除で利用者の作品や掲示物等を一扫し、新しい作品を徐々に掲示していく予定としており、今はスッキリした共用空間になっている。ユニット毎に3か所あるトイレは、車椅子利用に十分な広さがあり、掃除も行き届いている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 入居者同士のコミュニケーションが取れる配置や、一人で寛げる場を設け、思い思いの時間が過ごせる環境作りを心がけている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室の入口に、写真や名前を掲示したり、異なる柄の暖簾をかけたり、自分の部屋が分かるように工夫している。エアコン、クローゼット、ベット及び固定のサイドテーブルも設置しており、サイドテーブルは、ベットから立ち上がる際の補助バーに利用することもできる。 | 居室には馴染みの家具や身の回りの物を持ち込み、居心地よい空間にしている。事業所で用意しているベッドは、利用者が快適に過ごせるよう3モーター仕様である。壁には、本人が希望するものだけを貼るようにし、その人らしさを尊重している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者ができる事を継続していけるように、トイレや廊下に手すりの設置や、玄関に座って靴が履けるようにイスの配置等、安全かつ自立した生活が送れるような配置、設置を心がけている。 | | |